

ホームページ掲載用シート

子ども会用 No.1

子ども会名（ふりがな） なかさつないむらこどもかいいくせいれんらくきょうぎかい 中札内村子ども会育成連絡協議会	連絡先 〒089-1344 北海道河西郡中札内村東4条南6丁目1 事務局：中札内村教育委員会 TEL 0155-67-2929
会員数：幼児31名、小学生188名、中学生60名、高校生2名、指導者60名 <u>合計339名</u>	
地域の状況： 「なかさつない」は十勝の中心都市帯広市からおよそ28キロ、帯広空港から車で10分くらいの位置にあり、日高山脈のすそのに広がる農村地帯です。清流札内川が村を縦断し、平野部は耕地防風林で囲まれ十勝の自然を象徴しています。 中札内村の入植者の定住は、明治38年にさかのぼり、道もない原野、カシワやミズナラが空を覆うような大地で、厳しい自然と闘いながら開拓が進められました。明治45年には帯広まで道路が開通、昭和4年には住民念願の鉄道も開通しました。昭和22年に中札内村が誕生し、開村当時人口は4,400人で、約740戸でした。村名の語源は、アイヌ語で「乾いた川」を意味するサチナイと、札内川の中流に位置するという意味からなっています。	
発足から現在までの主な沿革： 昭和39年に中札内村市街地を中心に、行政区長を通じて単位子ども会の組織化が進められ、地域ごとの子ども会活動が始まりました。当時は7団体の子ども会があり、単位子ども会ごとの活動が展開されていましたが、団体ごとの連絡協調を図るためにも、単位子ども会の連合組織の発足が求められるようになりました。そして昭和42年に子ども会育成連絡協議会が設立され、単位子ども会の交流や研究が行われるようになりました。その後、子どもの増加や、農村部にも子ども会育成の意識が高まったことにより加盟団体も増え、昭和60年には15団体、平成10年には17団体会員数480名余りとなりました。その後単位子ども会が18団体と増えたものの、少子化が年々進んだ影響で現在では会員数は340名余りとなっています。	
子ども会での活動（年間行事計画） 1 夏季野外レクリエーション 平成26年8月 2 ポロシリ大学生と子ども会との交流会 平成27年1月 3 冬季野外レクリエーション 平成27年2月 4 南十勝地域子ども会交歓会（大樹町） 平成27年2月 5 各種行事への協力 ○ジュニアアウトドアスクール（足寄町） 平成26年7月27～28日 ○ふれあい広場2014（社会福祉協議会主催） 平成26年9月	
活動プログラムは誰が作りますか…？ 1 子どもたち 2 子どもと大人の代表 3 大人の作ったプロに子どもの意見を聞く ④ 大人だけ 5 その他（	

特色ある活動及びプログラム、自慢できること：

- ・年2回夏季と冬季に実施するレクリエーション
- ・子ども会と高齢者大学との交流会
- ・地域の子どもを地域で育てる取組みとして、各事業で子どもと大人と一緒に活動し楽しめ、交流を深められるプログラム
- ・他市町村との子ども会同士の交流事業

(平成25年度)

十勝地区地域子ども会安全対策事業として、冬の子ども会活動を安全に行うための講習を実施しました。合わせて、冬季野外レクリエーション兼南十勝子ども交歓会を実施し、南十勝の子ども会の児童・生徒・関係者ら140名が参加しました。実際に冬の事業に参加しながらの講習ということで、冬期間の子ども会活動での安全対策やプログラム運営に関して、より具体的な意見交換をすることができました。

子ども会活動における問題点：

- ・子どもが少なることで、行政区での子ども会活動が減ってきている。
- ・子どもの活動が多いため、子ども会活動に参加する児童・生徒が限られている。
- ・子ども会役員のなり手がいない。

子ども会活動における今後の展望：

- ・子ども会活動の広報活動や支援を進める。
- ・共育の日関連事業として、地域の子どもを地域で育てる取組みを進めていく。

活動の写真



写真の説明：

夏季野外レクリエーション
子ども会活動に、地域の大人も参加！子どもも大人も一緒にレクリエーションをして楽しみました♪

活動の写真



写真の説明：

子ども会とポロシリ大学との交流会
高齢者大学との交流でパーククラフトに挑戦！地域の大人と力を合わせて作っていました。

活動の写真



写真の説明：

冬季野外レクリエーション
地域の子どもから大人も参加！

活動の写真



写真の説明：

冬季野外レクリエーション
恒例のスノーモービル体験！